

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 大腿骨近位部骨折周術期の効果的な看護師による栄養スクリーニングの検討—Serum albumin levelとBarthel Indexの相関検討を中心とした後ろ向き研究—』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 4A病棟 看護師 西岡 武朗

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院4A病棟では、当院の大腿骨近位部骨折患者の血清アルブミン値(Alb)を中心とした栄養状態評価および栄養状態と術後経過やバーセルインデックス(BI)等の関連性の検討を通して、術後の日常生活動作(ADL)維持向上に効果的な当院の栄養介入や効果的な看護師による栄養スクリーニングへの示唆を得ることを目的として本研究を計画しました。

本研究で得られる成果は、病棟看護師が患者の栄養評価や介入基準について関心を持ち、栄養管理の重要性を認識・共有でき、今後の栄養管理や多職種連携にも貢献できることにつながります。

※バーセルインデックス(BI)とは・・・日常生活動作における障害者や高齢者の機能的評価を数値化したもの

【研究対象および方法】

研究は、東邦大学医療センター大橋病院)倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2019年1月1日～2021年6月30日までに東邦大学医療センター大橋病院4A病棟において、大腿骨近位部、大腿骨頸部、大腿骨頭部、大腿骨転子部骨折の診断で入院し手術を受けた方です。対象者数は約190名です。

方法:診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

【研究に用いられる試料・情報】

- ・年齢、性別、基礎疾患(既往歴)等
- ・手術待機日数
- ・術後合併症発症の有無
- ・在院日数
- ・術前の食事量
- ・採血データ[total protein(TP),Alb, C-reactive protein(CRP), hemoglobin(Hb)]
- ・入退院時の看護度(担送、護送、独歩)及びBI
- ・初回リハビリ時と退院前の最終リハビリ時のバーセルインデックス(BI)

【研究組織】

東邦大学医療センター大橋病院 研究代表: 西岡 武朗 役職: 看護師

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方(代諾者が必要な場合は代諾者を含む)は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 4A 病棟

氏名 西岡 武朗

電話 03-3468-1251 内線 3411